

1851 年ロンドン万国博出品趣意書にみる商品販売

重 富 公 生

I は じ め に

史上名高い 1851 年のロンドン万国博覧会については、古くからの研究の蓄積も豊富で、ここ数年でもいくつかの重要な著作が刊行されている。ただし近年の研究においては、この博覧会の有していた多面的かつ複雑な性格が強調されており、かつてのような「全諸国の産業成果の大博覧会」（ロンドン万博の正式名称）という単純な輝かしいイメージはいくぶん修正されつつある。そのような多面性のうち、この万博の巨大な「商品市」としての性格をとくに強調したのがトマス・リチャーズであった。

リチャーズは著書『ビクトリア朝イギリスの商品文化』において、ロンドン万博がいかに商取引の全般的な活性化に貢献したかを、三つの側面から説明している。第一に、ロンドン万博は膨大な商品の集合体を一堂に会する最初の機会を広く一般向けに提供したという点。すなわち、万博はビクトリア朝イギリスの商品文化や消費主義の最初の顕現（outburst）であり、まさに史上初の「国際商品市」、「デパート」、「ショッピング・モール」の役割を果たした¹⁾。第二に、たんに一般向けにそのような機会を提供したばかりでなく、観客自らが商品交換の積極的な関与者となりうるという意識を覚醒したことである。いうまでもなく、ほぼすべての展示品が最終的には販売を目的に考察され、生産されたものである。ロンドン博では、博覧会自体が巨大な「商品市」「見本市」と

1) Richards (1990), pp. 17-18.

なることはその高邁な主旨にそぐわないとして、少なからぬ出品者・出品国からの要求にもかかわらず、展示品には価格を表示しない原則が堅持された。商品の経済的価値を明示することは拒まれたのである。そのため商品のビジョンを提示する一方で、交換のリアリティーを表面上は観客の視界から消すという役割を果たした。このことについてリチャーズは、もし「値札」が付されていたなら、逆に一般の観客は直接商品に惹かれ結びつけられにくかったかもしれない。なぜなら、その商品が特定の「お金持ち」にしか手が届かないことを否定なく知ったであろうから。値札がないことで、一般の観客は自らも参加できる可能性のある商品交換の透かし絵（transparency）を提供されることになったと解釈している²⁾ 第三に商品を世俗的な交換行為以上のものに高めたことである。価格が表示されなかったこと自体これに貢献している。むしろ万博の会場となった「水晶宮」内部は街頭市場とは多くの面でかけ離れたものであった。そして街頭での商品交換にかかわる売り手や宣伝手のほとんどは社会的には底辺に近い存在であった。万博において商品の全体像（representation）が体系化され、消費社会のスケール・モデルが提供されることによって、いわば商取引行為自体が高められ、そのような階層も社会的に認知される存在になっていったのである³⁾。

ロンドン万博のこのような性格をふまえ、筆者はすでにこの博覧会の特徴的展示品を概観することによって、19世紀なかばのイギリスの「商品世界」像を探ろうとする小論を発表した⁴⁾。本稿はその続編として、「商品市」としてのロンドン万博で、各出品者（＝業者）がいかにして商品の「売り込み」を図ろうとしていたかを、現存する出品趣意書の内容によって観察しようとするものである。典拠史料として、出品趣意書以外に万博の公式カタログ、万博王立委員会に宛てられた書簡類を用いた。

2) Richards (1990), pp. 38-39.

3) Richards (1990), pp. 39-40.

4) 拙稿 (2003)。

Ⅱ 出品趣意書について

ごく簡単にいえば出品趣意書 (Prospectuses of Exhibitors, 以下原則として「趣意書」と略記) とは、ロンドン万博での出品にあたり、出品者から万博主催者にたいして提出された、出品の意図や展示品の概要などを記した説明書にあたる。イギリスのレディング大学附属図書館でマイクロフィルム化されたものを元に、合衆国ミシガン市の UMI が 9 リールのセットとして公刊している。管見のかぎりでは、現史料の一部は大英図書館などに所蔵されているが、これだけの数がまとめて公刊されたセットは貴重といえる。全部で約 900 の出品趣意書が収録されているが、以下にみるように個々の趣意書の内容や形式・分量は千差万別である。ロンドン万博の展示品は、その種類によって全体が大きく 4 つの部門 (原料・機械・工業製品・美術品) に分けられ、さらに全部で 30 のクラスに再分割されていた。別掲の表 1 は各クラスの展示内容と出品者数、そして趣意書の提出者数を記したものである。

クラス XI の綿製品, XIV の亜麻・麻製品については、趣意書がゼロである。マイクロの解説書にはたんに「オリジナルのシリーズ中にすでに存在しなかった」という説明しかない。もちろん 900 という数の趣意書は、当時作成されて提出されたものの全部をふくんでいるとは考えられないので、この二つのクラスの分についても、当初から存在 (作成・提出) しなかったというよりも、なんらかの事情で紛失した可能性が高い。ただし両クラスとも出品者の数は少なく (とくに綿製品は、イギリス産業のなかで占めていた位置を考えると驚くほど少ないが、それについてはここでは立ち入らない)、残っていたとしてもそれほど多くはならなかったと推測される。

それ以外のクラスについてそれぞれ趣意書の数を見てみると、クラスによって数のばらつきがそうとう大きいことがわかる。もちろん分母となる出品者数自体がそうなので、その数に影響されることは当然であるが、しかし相対的な不均衡のケースも少なくない。出品者総数は約 1 万 4 千であるから、趣意書提

表1 各クラス展示品分類・出品者数・出品趣意書提出者数

クラス	内 容	出品者数	提出者数
I	鉱物諸原料	474	16
II	化学・薬用原料全般	134	10
III	食材	136	16
IV	工業加工用・装飾用の植物性・動物性素材	119	12
V	直接利用の機械類（諸車両、鉄道・水運用機械）	400	58
VI	各種用途機械・道具類（繊維加工、金属加工、食品加工等）	241	33
VII	土木工学・設計建築諸装置	189	18
VIII	造船および軍事技術（武器・装甲・防具類）	340	30
IX	農業・園芸用器具・機械類	258	80
X	物理学・気学・天文学機器類、楽器、測時器具、外科医療器具	563	180
XI	綿製品類	64	#
XII	毛織物類（紡毛および梳毛織物）	337	12
XIII	絹製品およびビロード	80	2
XIV	亜麻・麻製品類	98	#
XV	種々の交織製品（ショール含む、梳毛織物除く）	*	*
XVI	皮革製品（馬具一式含む）、毛皮・羽毛・毛髪製品	280	33
XVII	紙類、文具、印刷具、装丁本	176	41
XVIII	捺染・染色繊維類	97	4
XIX	綴織（絨毯含む）、レース、刺繍、手芸・工芸品	292	6
XX	個人・家庭用各種装身具（帽子、靴下、手袋、下着等）	238	23
XXI	刃物類	43	6
XXII	鉄製品および金物類全般	628	97
XXIII	貴金属加工品および模造品、宝石類、趣向・奢侈品	122	29
XXIV	ガラス製品	93	6
XXV	陶磁器	60	9
XXVI	家具および室内装飾（張り壁紙、張り子、漆器含む）	346	50
XXVII	建築・装飾用の鉱物性物質加工品	127	12
XXVIII	動物性・植物性素材の加工物（これまでの分類に含まれないもの）	139	17
XXIX	種々の工業製品、小間物	283	32
XXX	彫像、模型、塑像	508	37

*クラス XV の出品者数は XII に合算されている。

#クラス XI および XIV の趣意書は残っていない。

(出所) *Official Catalogue*, vol. I, pp. 89-106 ; *Prospectuses of Exhibitors: A Guide to the Microfilm Collection*.

出率（正確には残存率）は、約 6.4% となる。原材料部門はクラス I から IV までをふくみ、部門全体ではほぼ上記の水準となるが、出品者の多いクラス I の鉱物諸原料の提出率が低い。一方、クラス V から X までの機械部門は約 20% という、著しく高い率となっている。この部門はクラス数は 6 であるが、趣意書の総数は全体の約 45% を占めていることからその突出ぶりが窺える。また製造業部門のクラス XI から XXIX までは、クラスの数も多く、残存数ゼロのクラスもふくめてばらつきがあるが、率も高く絶対数も大きいクラスは、XVI の皮革製品、XVII の紙類・文具・印刷具等、XX の各種装身具、XXII の鉄製品・金物類、XXIII の貴金属加工品等、XXVI の家具・室内装飾品などである。

趣意書の形式や内容は、この数字のばらつき以上に多様なものである。もっとも簡素で短いものは、たとえば会社の営業内容や住所を簡単に一枚だけにまとめたもの、さらには名刺大のカードだけというケースもある。これにたいして、数十ページにわたる詳細な冊子状カタログも多い。上記の機械部門でもとくにクラス IX の農業機械・器具類やクラス X（これは一つのカテゴリーに括るのは難しいが、後述）、それに製造業部門 XXII の鉄製品・金物類では、たんに数が多いだけでなく、情報量が豊富で多様な形式の趣意書が提出されている。

もう一度述べておくと、趣意書は万博主催者に提出されたものであり、観客が直接閲覧するためのものではなかった。しかしながら、出品者が会場で観客に展示品の説明をおこなったり、チラシやパンフレットの類を配布することは認められていた。それゆえ、必ずしもそのままのかたちでそこで配布されたとは言えないまでも、趣意書は一般の観客（消費者）に向けられていることを十分意識した情報を盛り込んだものと見なすことができよう。

Ⅲ 「商品カタログ」としての出品趣意書

出品趣意書は、万博の主催者である王立委員会にたいし、出品予定の製品の概要を説明し、出品の意図やその意義と必要性を訴えるものである。建前から

すれば出品者の意図が、科学的知識・文化的洗練・商品生産の高次の結合という万博の基本的主旨に合致していることが想定されていた。趣意書はたんなる一般向けの「商品カタログ」であってではなかったのである。にもかかわらず、趣意書の多くがそのような内容で作成されていることも事実である。というより、多くの出品者はこれまでの大小規模の国内の博覧会において商品を売り込む場として積み上げてきた実績を、きたる大博覧会で最大限に生かすべく、ひときわ詳細な「商品カタログ」を引っ提げてきたのである。ここでは、趣意書がそのような商品カタログとして、どう利用されているかをいくつか例示してみたい。

身近な商品として、たとえば香水・化粧品・石鹼などの趣意書を見てみよう。これらは分類上はクラス XXIX に入っているものが多いが、例外もある。香水などはやはりフランスの会社のものが多い。なかでも詳細な製品・価格リストがあげられているものは、ロンドンのバーカー社 (T. Barker & Co., これはクラス IV) のもので、香水・化粧品・石鹼等について、素材や香り、容器に徹底的にこだわった多品種の商品リストを提供している。香水のなかにはロンドン博のために特別に調合された女王陛下ご自身の香り (bouquet) を、アルバート公やプリンス・オブ・ウェールズのそれとセットで、といったいささか便乗気味の商品も見られる。もうひとつ身近な生活素材からあげると、ロンドン天然ゴム会社 (委託販売グランヴィル社 Granville & Co.) では、コートや防水ジャケットを中心に銃のカバーから空気ベッドの膨らまし器 (bellows) まで、これもバラエティー豊かなりリストとなっている。

主力の繊維製品を見てみよう。前述のように綿製品および麻・亜麻部門の趣意書が存在していないので、それ以外の業種からということになるが、クラス XII の羊毛製品と XIII の絹製品の趣意書もけっして多いとはいえない。そのなかでは羊毛製品のシュワン・ケル社 (Schwann, Kell, & Co., 第二等にあたるプライズ・メダルを受賞) の提出した趣意書には、詳細な商品カタログが付されている。梳毛原料 (worsted) の布地、またそれと綿、絹などを組み合わせ

を変えて交ぜ織りした布地が、色と等級により細かく分類されて商品化されていることがわかる。それ以外の糸素材として、アルパカ (Alpaca)、モヘア (Mohair) の使用が目をひく。アルパカはペルーの山岳部にすむ駱駝科の家畜で、その毛は黒、白、グレイ、茶色などの彩色を有し、色合いのあざやかさと生地之光沢、柔らかさなどで重宝されていた。国内で生地として使用されるようになってからまだ十数年しかたっていなかったが、すでにブラッドフォードでも欠かせない重要な素材となっていたという。とりわけアルパカと絹の交ぜ織りはその柔らかさと光彩で際立っており、綿との交ぜ織りでも絹に近い光沢を放った。アジア産のアンゴラヤギの毛であるモヘアもこの時期輸入が急増しているが、その光沢においてアルパカに劣らなかった⁵⁾。

技術史家のタンゼルマンは、18 世紀以来イギリス産業の技術革新は生産工程の改良、いわゆるプロセス・イノベーション (process innovation) を軸としており、19 世紀にはいっても基本的にそれが継承された。一方、17 世紀における羊毛部門の新織物 (ニュー・ドレイバリー) に代表されるように、それ以前はむしろ製品自体のプロダクト・イノベーション (product innovation) が中心であり、19 世紀半ばになってこれが再び見直されてきたことを指摘する⁶⁾。一方で M. バークは、じつは 18 世紀においても「模倣」を原動力とする新商品の「創造」が重要な役割を果たしていたことを強調している⁷⁾。シュワン社のカタログが示すものはまさにプロダクト・イノベーションの一例であろうが、ロンドン博はそのような動きにも力強い刺激をあたえたのである。

同社の趣意書から、製品リストの最初の部分をマイクロからそのまま復元したものを [引用 1] としてあげておこう。見られるように、右の “Material” の項目で、羊毛 (梳毛) のみか、羊毛と綿ないし絹との交ぜ織りかという、布地の素材を分類している。そしてあや織りやコール天、イタリア縐子 (しゅす)

5) *Official Catalogue*, II, p. 492.

6) Tunzelmann (1994), pp. 283-284.

7) Berg (2002).

などといった製品がそれぞれ細かく色分けされているのがわかる。なお、右端の手書きの数字は価格（シリング／ペンス）である。注目されるのは、同社は趣意書のなかで、出品者のもう一つの意図として、特別に目新しいものや際だって品質の良いものよりも、ブラッドフォード周辺で製造されている品質と等級のバラエティーの豊かさをみてほしい、そして、とくに標準的品質の製品に注目してほしいと強調していることである。つまり美しく手間と費用のかかる製品を作る熱意のみが目立ち、ひろく大衆向け（middle and humbler classes）の消費を想定した実用的繊維製品をしっかりと製造している事実が見落とされがちであることを憂慮している。そのため、別のカタログでは、職人芸的洗練を極めたもの、徹底的に安さを追求したもの、素材の組み合わせの珍しさをねらったもの、低価格と優れた外見をかねたお徳用品など、予算と目的に応じたセールス・ポイントが記されている。たとえば価格が手ごろな普及品クラスについては、“Cheapness”, “Cheapness and good colouring”, “Novelty of combination”, “Boldness and richness of effect, at low cost”, “Neatness and cheapness”, 中級の製品については “Novelty of cloth”, “Richness of material and purity of colour”, そして高級品には “Excellence of fabric and brilliancy of finish”, “Its extraordinary richness and mellow handle”, “Unrivalled excellence” といった表現となっている。

工業製品分野では、繊維関係よりもむしろ金属加工品関係の業者の趣意書が多かった。リヴァープールのジョゼフ・メイヤー（Joseph Mayer）は貴金属製品加工業者として、銀器などの日用品から装飾品にいたるまで各種製品を出品しているが、万博出品記念の銀製トレイの文様が特徴的である。一つのトレイはヴィクトリア女王の図を中心に、「ヴィクトリアとアルバートの不滅の御名と記念碑的な 1851 年を祝して」といった文言や、周辺には「わが国の偉大な人物」ウェッジウッド、スティーヴンソン、ウォットの図を配するというものである。またもう一つのトレイでは、やはり中心に女王とその傍らで静かに傳くライオン、そしてオリーブの花で縁取られた地球がこの時期の「世界平和」

LIST OF ARTICLES

SENT TO THE

GREAT EXHIBITION.

No.	ARTICLE AND QUANTITY.	COLOUR.	MATERIAL.
101	1 end, 10 yds., Merino	<i>Sky blue</i> . .	Worsted. <i>4/2</i>
102A	1 14 $\frac{1}{2}$ Silk-warp Coburgs	<i>Black</i> . .	Worsted and silk. <i>4/8</i>
102B	1 14 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Crimson</i> . .	Ditto. <i>5/1</i>
103A	1 13 $\frac{1}{2}$ Ditto double-twilled	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>6/1</i>
103B	1 13 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>6/1</i>
104A	1 15 $\frac{1}{2}$ Cotton-warp Coburgs	<i>Claret</i> . .	Worsted and cotton. <i>3/2</i>
104B	1 14 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Green</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
105A	1 15 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Brown</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
105B	1 15 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Indigo blue</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
106A	1 13 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Claret</i> . .	Ditto. <i>5/5</i>
106B	1 15 $\frac{1}{2}$ Ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
107	1 10 Ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>4/4</i>
108A	1 10 Ditto double-twilled	<i>Sky blue</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
108B	1 8 Ditto ditto	<i>Pink</i> . .	Ditto. <i>5/1</i>
108C	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
109A	1 8 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Sky blue</i> . .	Ditto. <i>6/4</i>
109B	1 10 Ditto ditto	<i>Crimson</i> . .	Ditto. <i>4/1</i>
110A	1 9 $\frac{1}{2}$ Victoria Cord	<i>Black</i> . .	Worsted. <i>3/1</i>
110B	1 7 Ditto	<i>Royal blue</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
111	1 7 Ditto cotton-warp	<i>Black</i> . .	Worsted and cotton. <i>3/1</i>
112	1 10 Italian Cloth, ditto	<i>Black</i> . .	Ditto. <i>1/11</i>
113A	1 15 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>2/3</i>
113B	1 14 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>2/4</i>
115	1 10 Ditto silk-warp	<i>Drab</i> . .	Worsted and silk. <i>3/2</i>
116	1 10 Ditto ditto	<i>Black</i> . .	Ditto. <i>2/2</i>
117A	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Royal blue</i> . .	Ditto. <i>2/8</i>
118A	1 7 Ditto ditto	<i>Brown</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
118B	1 6 Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>3/2</i>
118C	1 6 Ditto ditto	<i>Olive</i> . .	Ditto. <i>3/2</i>
118D	1 6 Ditto ditto	<i>Pink</i> . .	Ditto. <i>3/6</i>
119	1 10 Ditto ditto	<i>Green</i> . .	Ditto. <i>3/3</i>
120	1 10 Ditto ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
121A	1 10 Figured Italian Cloth, cotton-warp	<i>Drab</i> . .	Worsted and cotton. <i>2/4</i>
121B	1 9 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>2/6</i>
121C	1 8 Ditto ditto	<i>Royal blue</i> . .	Ditto. <i>2/3</i>
122A	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto silk-warp	<i>Brown</i> . .	Worsted and silk. <i>2/6</i>
122B	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>2/6</i>
122C	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Olive</i> . .	Ditto. <i>2/6</i>
122E	1 10 Ditto ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
123C	1 15 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Black</i> . .	Ditto. <i>2/6$\frac{1}{2}$</i>
124A	1 9 Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
124B	1 8 Ditto ditto	<i>Violet</i> . .	Ditto. <i>3/1</i>
124C	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Olive</i> . .	Ditto. <i>3/11</i>
125A	1 9 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Drab</i> . .	Ditto. <i>2/8</i>
125B	1 9 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Marone</i> . .	Ditto. <i>2/10</i>
125C	1 10 $\frac{1}{2}$ Ditto ditto	<i>Green</i> . .	Ditto. <i>2/10</i>

を象徴している。彼女は地理的に「姉妹」であるヨーロッパ、アメリカ、アジア、そしてアフリカに慈愛の右手を差し伸べる。その一段低い位置には、各地域を代表する製品のイギリスとの取引が描かれる。すなわちアメリカはマンチェスターやスピタルフィールズからの輸出品と引き替えに煙草や綿を供給する。アフリカはキャリコと交換に象牙や椰子油を、アジアは香辛料、ゴムを、中国はお茶を…といったあなばいである。万博が記念碑的な行事であることをあらためて印象づけると同時に、自らの製品もそうした場に相応しいものというイメージをあたえ、その一方でイギリス中心の世界観を打ち出して観客の自尊心をくすぐることによる宣伝効果を意識した内容といえよう。

全体として見てみると、趣意書が質量ともに圧倒的に豊富なのは、機械部門である。消費財から資本財まで各種の機械が間近に観察できる（しかも実際の稼働ぶりも見られる）この部門は、多くの観客にとって目を釘付けにするような見物であった。それらの用途や機能、操作法についての説明をかねたカタログは、必然的に大部のものにならざるを得なかった。クラスIXの農業機械関係業者は、出品意欲が高く、趣意書の内容も詳細なものが多い。リンカンシャーのホーンズビー社（R. Hornsby & Son, 最優等のカウンスル・メダル受賞）の趣意書を見てみよう。他の大手農機具会社同様、とくに熱心に売り込みをはかっている製品は、各種農作業用途の移動蒸気機関である。同社の移動機関はイギリス王立農業協会の会合において過去二度にわたり一等賞をとったという、他社のどこにもないメリットが強調されている。移動蒸気機関は4馬力から10馬力程度のもので、その性能により等級が分けられているが、価格は安価なものでも£165、高性能のものは£250にのぼり、各種農業機械のなかではもっとも高価なものであった。各社にとって販売の利鞘も大きかったものと推察され、趣意書ではメカニズムや取扱い上の長所が丁寧に説明してある。そのほか、同社の趣意書には、農作業万般にわたる機械・器具の図解入りリストが、等級に分けて価格表示してある。蒸気機関以外でとくに売り込みに力が入っているのが、播種機である。この場合も作物の種類や地形の特色に応じた

10

R. HORNSBY & SON'S IMPLEMENTS.

Patent Drilling Machines.

Prizes awarded by the Royal Agricultural Society of England, and other Agricultural Societies, to R. Hornsby and Son, for their Patent Drilling Machines.

**By the Royal Agricultural Society of England,
at Exeter, July, 1850,**

	£.	s.
For the best corn and turnip Drill	10	0
For the best Drill for turnips and manure, on the flat ...	10	0
For the best Drill for turnips and manure, on the ridge ...	10	0
For the introduction of Patent Vulcanized India Rubber Tubes, for the conduction of seed in Drills; also, for Patented Im- provements in the fore carriage steerage, applicable to all Drills,—the Prize Medal.		

By the Royal Agricultural Society of England, at Norwich, July, 1849,

For the best Drill for general purposes	15	0
For the best Drill for turnips and manure, on the flat ...	10	0
For the best Drill for turnips and manure, on the ridge,—the Prize Medal.		

By the Royal Agricultural Society of England, at York, July, 1848,

For the best Drill for general purposes	15	0
For the best Drill for turnips and manure, on the ridge ...	10	0
For the best Drill for distributing pulverized manures, broadcast	10	0

By the Royal Agricultural Society of England, at Northampton, July, 1847,

For the best Drill Presser for corn and manure	10	0
-------------------------------------------------------	----	---

By the Royal Agricultural Society of England, at Newcastle-upon-Tyne, July, 1846,

For the best Drill for general purposes	15	0
For the best Drill Presser for corn and manure	10	0

By the Royal Agricultural Society of England, at Shrewsbury, July, 1845,

For the best Drill for general purposes	15	0
For the best Drill for turnips and manure, on the ridge ...	10	0
For the best Drill for turnips and manure, on the flat ...	10	0
For the best Drill Presser for corn and manure	10	0

By the Royal Agricultural Society of England, at Southampton, July, 1844,

For the best Drill Presser for corn and manure	10	0
And the Prize Medal.		

By the Royal Agricultural Society of England, at Derby, July, 1843,

For the best Drill for general purposes	10	0
For the best Small Seeds Drill,—the Prize Medal.		
For the best Drill for turnips and manure, on the ridge,—the Prize Medal.		

多種多様のモデルが用意されており、それらの過去の王立農業協会等での受賞歴を、その時の賞金まで明記してリストアップしている。[引用2]は趣意書からその部分をコピーしたものであるが、こういった受賞歴の誇示も販売促進にとってすこぶる効果的な方法と見なされていた。むしろその効果のあまりの大きさから、逆に万博での表彰制度の採用自体に反対する声もあったほどである⁸⁾。

Ⅳ 商品の「売り込み」

このように出品趣意書は、一般的な商品販売の宣伝媒体としても通用する商品カタログ的な役割も担っていた。しかし、たんなるカタログとしての機能だけでなく、万博という未曾有の公衆が集う場を利用して商品を「売り込む」ための様々な工夫が凝らされていたのである。ここでは少なからぬ趣意書に共通してみられるパターンを観察する。

頻繁に目につくのは、すでにその商品を購入して利用しているユーザーから寄せられた使用体験談を掲載しているものである。まずはやや特殊な商品から見てみよう。クラスⅡのジョージ・ピーコック (George Peacock, 発明家・船長などの肩書きがある) による出品は、海藻付着防止用船底塗料というものである。ロンドン万博では日常の商品や機械器具類を中心に、きらびやかな宝石類や噴水・彫像類のような人目を引く展示品もあれば、特殊な工業原料や機械掃除用のボロぎれなど、おそらく一般の観客にとって何の関心も持たれない展示品もあった。この例なども一般の「商品」としてはかなり特殊な部類に入であろうが、関係業界筋から使用体験記がいくつか寄せられている。つぎにあげるのは、「ディスパッチ Dispatch」丸の船長からのものである (日付は1850年5月27日)。

「私はつぎのことを確証するのを喜びに存じます。私はサザンプトンと海峡

8) 拙稿 (2005) 73-76 頁参照。

諸島を往復する郵便船デイスパッチ丸に、私の判断で、この 13 週間ほど貴社の製品を塗った状態で航行しています。先日の航海中ジャージーで船のキールの下の部分まで観てみましたが、全くなにも付着していないことがわかりました。そればかりではなく、爾來船舶の速度が目に見えて早くなり、どちらの方向の航海も時間が短縮された結果、燃料も節約できています。これはひとえに貴社の塗料による表面摩擦の減少によるものです。」

ほかの体験記の内容も大同小異で、ぜひ同業他社にも製品を推薦したい、などといった記述も目立つ。一方、ブーツ製造業のジェイムズ・ダウイ (James Dowie) は、軍隊向けのブーツ販売にも力をいれていた。同社の趣意書には、自社の製品が人間工学的にみていかに合理的に作られているかを解説したジェイムズ自身の文章にくわえて、使用体験談が記載されている。特徴的なのは御得意筋のユーザーの声を拾っていることで、つぎの「イギリス軍北部方面統合幕僚議長」某氏の証言もそのひとつであろう (日付は 1839 年 3 月 28 日)。

「貴社の依頼に応じて貴社の特許天然ゴム製ブーツについての小見を申し述べます。貴社の製品はいままでのだんなものより履き心地が良かったと、なんの躊躇もなく申しあげます。町中と戦場両方で試したのですが、歩きやすだけでなく、これまで履いたブーツや靴よりも長距離を歩くことができ、満足です。」

クラス IX の農業機械業者からの趣意書は、商品カタログとして充実しているだけではなく、こういったユーザーの使用体験談を掲載しているものが多い。ヨークシャーのビヴァリーに本社のある機械・農機具製造業者クロスキル鉄工所 (W. Crosskill) の趣意書は、他の同業者からのそれにもましてじつに良く整理され情報量も豊富な冊子体となっている。同社はハルおよびリヴァプールに支所を持ち、ロンドン、ブリストル、バーミンガムにはエージェントがあり、ロンドン博開催中は市内のナイツブリッジに臨時の出張所を構えていた。製品は農業機械・農機具全般におよび、さらに機械部門のほかのクラスにも、固定蒸気機関や各種粉碎器、車輪などを出品していたが、一般にも評価が

高く趣意書でもとくに売り込みに力を入れているのが、特許を取得した農地用土塊破碎ローラーである。これは円柱状のローラーで表土を均していくのではなく、主軸（車軸）のまわりにそれぞれ独立して回転する23の円盤（ローラー）を配したものである。ローラーの円周部は鋸歯状に加工してあり、土塊を垂直方向からの確に破碎することができるという。

趣意書は、このローラーがユーザーのみならず専門家からもいかに高い評価を受けていたかを、ややしつこいぐらいくり返して記述している。たとえば王立農業協会（Royal Agricultural Society of England）が各地で開催している農機具実地試験での審査員報告からの引用がある。シュルーズベリーの実地試験では「クロスキルのローラーはすべてのライバル社の製品に勝っていることが証明され、同協会の賞を授与された。ギャレット社およびケンブリッジ社の製品と比較試験が行われたが、審査員は、すべてのローラーが独立して主軸の周囲を回転するという点でクロスキルの製品がギャレット社のものより優れていると判断した。ケンブリッジ社のものも適正なローラーと思われるが、土塊破碎器と称することはできない。」なお、引用文中の Garrett & Sons と W. Cambridge はロンドン博でも同じクラスに出品しており、とくにギャレット社はクロスキル同様展示品数も多く、ローラー以外の展示品にたいして最優等のカウンスル・メダルを受賞している。クロスキル社はローラーなどの出品を理由に同じ賞を受けているが、こうした固有名詞による直接の優劣比較が効果的な商品売り込みにつながったことは確実であろう。さらに趣意書では、使用体験記にも相当数のページを割いており、5つの質問項目を設定して、全国各州を地区別にわけて利用者からの回答を掲載している。これなど、やや誘導証言的な趣がなくはないが、回答内容のほとんどが好意的な内容であることは、いうまでもあるまい。

こういったユーザーの体験談の掲載は、万博の趣意書だけでなく、広告・売り出しの方法として当時ごく一般的な慣行であったようである。じっさい、万博の開催にはるかに先立って、博覧会会場の建物や設備の一部として自社の製

品を採用するように働きかけている手紙とカタログが残されているので、それを見てみよう。ターフ・ウィレット社 (Taaffe & Willett) は、1850 年 4 月 8 日に以下の内容の手紙を万博実施事務局 (Secretary) 宛に送っている⁹⁾。「きたる博覧会の建物の屋根に使用する素材として当社の製品を推奨したい。当社の製品にあたえられた特許は、その軽さ、優雅さ、耐久性、経済性が高く評価されたことによる。」そして印刷した図柄入りのチラシが同封され、製品の説明以外に、これまでの公的建物での採用実績やユーザーの使用体験談および製品への賛辞が記されている。この時点では、実際に会場建物として採用されたパキストンによる「水晶宮」案は浮上しておらず、最終的な建築プランは立てられていなかった。のちに同社の製品が建物の屋根として採用された形跡はないが、出品者としてはクラス VII に名を連ねている。一方サーモン社 (Surmon & Co.) は特許の石炭煙利用の水蒸気供給機のカatalogととともに、もし会場に蒸気力が提供されるようであれば、わが社の製品を利用して欲しいと陳情している¹⁰⁾。会場で蒸気機関が稼働されるという予想をただちにビジネスチャンスに結びつけようとしている点、いかにも抜け目がない。ユーザーの使用体験記も上記ターフ社よりはるかに念の入ったものである。この場合も実際に採用された形跡はないが、やはりクラス V の展示品としての出品はあった。

使用体験談が主として一般のユーザーの声や評価を拾ったものであるとすれば、もう少し専門的な立場から書かれた展示品にたいするより客観的・科学的論評を記載した趣意書も少なくない。製品の性能や機能の解説とは別に、出品者ないし専門家による詳細な（場合によっては学術論文に匹敵する内容と分量の）解説が付されているケースもある。これは重要であるがそれまで消費者や他の業種から関心を向けられることが少なかった製品や素材、また近年とくに製造法やそれに関する科学的知見の上で長足の進展が見られる分野に多い。このことは見物客に科学的啓蒙の機会をあたえるという、万博主催者側の主要な

9) CP, 1850, no. 102.

10) CP, 1850, no. 128.

意図にも沿うものであろう¹¹⁾。ちなみに原材料部門の意義について、アウアバックはつぎのように指摘している。ロンドン博は、いわばもっとも広い意味での商業的行事 (commercial event) であった。すなわち新たな素材を紹介したり市場や取引を拡大することによって生産工程の改善を促すということもその任務のひとつとしていたが、原材料部門はまさにこの主旨に沿ったものである。この部門が加えられたのは、それを生産者に認知させ、その供給者と製造業者を結びつける目的にほかならなかった¹²⁾。すでに公式カタログ自体、たんなる陳列品リストないし図録ではなく、専門的解説書という性格を強く帯びていた。各クラスの冒頭の部分では専門家による解説が付され、当該分野の科学・技術的知見の歴史と現状・問題点、今後の方向と可能性について、門外漢にも把握可能な文章でまとめられている。そして展示品の解説のなかでも必要に応じて原料の供給場所や取引 (貿易) 量についてのデータが、個々の展示品の解説を離れて一般的なかたちで提供されている。また、たとえばクラス I の末尾には「世界各地の各種鉱物性燃料の質と埋蔵量についての解説」と題された、署名入りの論文が掲載されている¹³⁾。このような専門書적徹底ぶりは、次の1862年ロンドン万博の公式カタログには見られなくなっている。

趣意書も、このような主催者側の意図を汲み、専門的な解説書の実質を備えているものがある。よく知られているように、会場となった水晶宮は文字どおり膨大な量のクリスタル・グラスによって構築された、巨大な温室型建造物であった。クラス XXIV のガラス製品も、製法や用途、製品の多様化、そして国内での生産量という面で、19世紀の半ばには飛躍的な発展が見られた分野である。ロンドンのフリント・グラス製造業者ベラット社 (Apsley Pellatt & Co.)

11) ちなみに鉱物資源の埋蔵量が豊富な州のひとつであったコーンウォールの州当局は万博主催者側に宛てて、つぎのように問い合わせている。「わが州で鉱山運営に携わっている者にとって、万博への出品によって得られるものはほとんどないと受けとめられている。かれらにとってどういうメリットがあるのかははっきり示すために、わが州からの出品の主旨について、アルバート公や関係委員会のご見解をお聞きたい。」(CP, 1850, no. 104.)

12) Auerbach (1999), p. 98.

13) *Official Catalogue*, I, pp. 178-183.

は趣意書にガラスの性質や種類等について、一般向けの解説書を添付している。そこには、モノとしてのガラスの基本的な性質や、古来それが果たしてきた役割、そして例えばフリント・ガラスはなにを素材にどう作られるか(珪素・アルカリ・鉛等が素材、工程で用いる砂はワイト島のアラム湾 Alum Bay のものがベストといった内容)などが平易に解説されている。

石炭や鉄鉱石などの鉱物性原料の採掘部門は、いうまでもなく当時のイギリス産業の大黒柱のひとつであった。鉱山安全装置メーカーのフォードリニアー社 (E. N. Fourdrinier) の趣意書は、まず鉱山での死亡事故の犠牲者数を明示し、なかでもロープやチェーン切れを原因とする事故が少なくないことを指摘する。そしてその種の事故を防止するための安全装置が同社の製品であるが、その優れた効用を売り込むにあたり、広告専門紙上での同社の安全装置の信頼性に関する記事を引用し、それを採用した鉱山関係者の手紙(むろん装置の効果の大きさを賞賛する内容)を添付した『鉱山雑誌』*Mining Journal* の編集者あての売り込み文句、*Gateshead Observer* 紙宛の同種の文書、そして鉱山主や技師連名での実地効果証明文書も掲載するなど、自社の製品にたいする「お墨付き」を得るために多方面に働きかけていることがわかる。

ロンドンのグッタ・ペルカ社の趣意書も詳細な内容を持つものである。グッタ・ペルカ (gutta percha, クラス XXVIII に入れられている) はこの時期に確かに注目されるようになっていた新素材で、その期待の高さは同社にあたえられたカウンスル・メダルによって示されている。これはマレー半島に繁茂しているあるアカテツ科の樹木 (*Isonandra Gutta*) の樹液を加工した、天然ゴム (caoutchouc) に似た素材であったが、万博までの数年間にシンガポールからの輸入量は激増した¹⁴⁾。素材としての適用分野はきわめて広範囲にわたり、靴底素材などの防水用途、農業用・工業用素材 (たとえば羊毛織布機の飛杼レール用素材として、従来の皮に替えることによって費用の節約と性能の向上が見

14) *Official Catalogue*, II, p. 784.

込まれるという), 救命ブイや魚網用浮き袋などの海事用途, 腕木や天井飾りなどの装飾用途, そして補聴器や鎖骨宛副木などの医療用途分野にまで及んでいる。趣意書は商品カタログであると同時に, それぞれの分野で素材としてグッタ・ペルカがほかの素材に比べていかに優れているかを, 科学的かつ説得的に説明することに力を注いでいる。使用体験談も付記されており, 万博を機会に素材としてのグッタ・ペルカの認知度をさらに高めてビジネスチャンスを拡大しようとする意図が窺える。

もちろん, 機械部門も詳細な解説が付されていることが多い。クラス X は科学用機器 (philosophical instrument), 楽器, 測時機器, 外科医療器具などがふくまれ, 展示品の種類と数もきわめて多数にのぼっているが, とりわけ外科医療器具はカタログの分類も細かく, 趣意書も多く残されている。性質上, 趣意書の内容も性能および使用法について詳細な記述を伴うものになっており, 専門雑誌掲載の文章を引用したものも見られる。

V お わ り に

1851 年ロンドン万博という未曾有の国際的催しにたいする産業各界の期待は, 当然のことながら絶大なものであった。すでに 1849 年から開始された, きたるロンドン博に向けた全国各地での意見聴取・合意形成の作業においても, ほぼ全地域で万博開催にたいして賛同の声が寄せられ, 著名な工業都市ほどその声が高かった¹⁵⁾。王立委員会に寄せられた手紙にも, このような業者の期待を表明したものが見受けられる。ひとつだけ引用すると, 1850 年 3 月 1 日付のウォルヴァーハンプトンの一業者からの手紙は, 「さきに回覧された 1851 年の博覧会における工業製品分類リストを拝見しましたが, 張子 (paper mache), 漆器 (japan) などの製品について言及されていないようです。欠落している理由をお聞かせ願いたい。当市やバーミンガム市では漆器等はもっと

15) このあたりの経緯については, 拙稿 (2005) 70-71 頁参照。

も重要な工業部門であり、何千もの業者がその工程に直接ないし間接にかかわっているのです」という内容であった¹⁶⁾。

しかし産業界の期待の方向性は、必ずしも万博の組織者・主催者が想定したようなものではなかった。もう一度確認しておく、アウアバックも指摘しているように、万博によってその組織者達は、立脚範囲の広く、かつ革新的で洗練された産業・市場社会（industrialized market society）を打ち立てようと意図していた。商業と文化が両立し、その両方の上に築かれる社会といってもよい。それゆえ万博をたんに商品売買を刺激・促進する商業的行事にしてしまわないように組織者側は懸命に努力していた。にもかかわらず、結果的にはそのような性格を強く有する催しになってしまったことも否めない。ごく単純化して言えば、組織者たちはイギリス経済の長期的改善に関心があり、生産のプロセスの改良と洗練度の増大に腐心しているのにたいし、商工業者たちは多くの場合博覧会を短期的な利益を増進する機会とみており、しばしば両者の間で葛藤が生じたのである¹⁷⁾。

本稿では出品者たちが、ロンドン万博を「商品市」の場と見なしていかに消費者たる観客に売り込みを図ろうとしていたかを、趣意書の内容によって見てきた。もちろん残存する趣意書の数や情報量は限られており、ここから一般的な実態をどこまで推測できるかについては議論の余地もあろう。また専門家による解説文の掲載などは、たんに販売促進を意図したものというよりは、科学的知識の普及や一般的啓蒙を目的としており、万博の組織者たちの理想および公式カタログ作成の理念にも沿うものであった。にもかかわらず、趣意書はそこに盛られた商品の「売り込み」のための多様な意匠において、ロンドン博が有する商品市としての性格を雄弁に物語っている。そればかりでなくユーザーの体験談の掲載からもわかるように、当時の一般的な商品広告や売り込みの方

16) CP, 1850, no. 20.

17) Auerbach (1999), pp. 98, 108-109.

法についても、ほかでは得がたい貴重な情報をあたえるものと言えるのではないか。本稿でその一端を示すことができたのであれば幸いである。

参 考 文 献

(マニュスクリプト)

Correspondence and Papers, Royal Commission for the Exhibition of 1851. 万博王立委員会が保管している書簡類。脚注ではCPと表記し、その後にそれぞれの史料番号を付記する。

(出品趣意書・カタログ類)

The Great Exhibition of 1851: Prospectuses of Exhibitors (Michigan: UMI, 1991). 主たる典拠とした出品趣意書。マイクロ・リールでは個々の趣意書は史料番号などが付されておらず、本稿でもとくに注記はしていない。

The Illustrated Exhibitor, a Tribute to the World's Industrial Jubilee; Comprising Sketches, by Pen and Pencil, of the Principal Objects in the Great Exhibition of the Industry of All Nations (London: John Cassel, 1851).

Official Descriptive and Illustrated Catalogue of the Great Exhibition 1851, 3 vols. (London: Spicer Brothers, 1851).

Official Descriptive and Illustrated Catalogue of the Great Exhibition 1851, 4 vols (本の友社, 1996). これは上記の複製版。引用箇所では、*Official Catalogue* と略記する。

(文献)

Auerbach, J. A. (1999), *The Great Exhibition of 1851: A Nation on Display* (New Heaven).

Berg, M. (2002), "From Imitation to Invention: Creating Commodities in Eighteenth Century Britain", *Economic History Review*, LV, 1, pp. 1-30.

Davis, J. (1999), *The Great Exhibition* (Stroud).

Greenhalgh, P. (1988), *Ephemeral Vistas: A History of the Expositions Universelles, Great Exhibitions and World's Fairs, 1851-1939* (Manchester U. P.).

Hobhouse, H. (2002), *The Crystal Palace and the Great Exhibition: A History of the Royal Commission for the Exhibition of 1851* (London).

Leapman, L. (2001), *The World for a Shilling: How the Great Exhibition of 1851 Shaped a Nation* (London).

Richards, T. (1990), *The Commodity Culture of England: Advertising and Spectacle, 1851-1914* (Stanford).

Tunzelmann, N. v. (1994), "Technology in the Early Nineteenth Century", Floud, R. & D. McCloskey (eds.), *The Economic History of Britain since 1700*, vol. 1 (2nd ed., Cambridge),

pp. 271-299.

重富公生（2003）「十九世紀半ばイギリスの商品世界－1851 年ロンドン万国博展示品を中心に－」『ヴィクトリア朝文化研究』第 1 号, 3 -21 頁。

重富公生（2004）「1851 年ロンドン万国博と製造業利害－「バーミンガム問題」を中心に－」『神戸大学経済学研究年報』第 50 号, 1 -14 頁。

重富公生（2005）「1851 年ロンドン万国博の表彰問題をめぐって」『国民経済雑誌』第 191 巻第 4 号, 69-83 頁。

松村昌家（1986）『水晶宮物語』（リプロボート）。